

1. 訪問講座「日本とアジア」開催の経緯

東北大学東北アジア研究センター（瀬川昌久センター長・当時）と本学の大学間学術交流協定締結機関であるロシア連邦のノヴォシビルスク国立大学人文学部（学部長レオニード・パーニン教授）は、2008 年、「日本アジア講座」開催に関する覚書を締結した。2008 年 11 月、東北アジア研究センター岡洋樹教授、高倉浩樹准教授がノヴォシビルスクを訪問



し、講座に関する覚書を締結すると共に、東北大学及び東北アジア研究センター紹介、日本のユーラシア、ロシア・シベリア研究に関するセミナーを実施した。2009 年度から「講座」を開催し、第 1 回は 2009 年 11 月 17 日～ 21 日、東北大学大学院文学研究科長岡龍作教授（日本美術史）、尚絅学院大学千葉正樹教授（日本史）、東北大学東北アジア研究センター岡洋樹教授（東洋史）が講義を行うとともに、ノヴォシビルスク大学人文学部東洋学科学生による発表会が行われた。第 2 回は 2010 年 10 月 5 日～ 9 日、東北大学大学院文学研究科阿子島香教授（考古学）、同東北アジア研究センター高倉浩樹准教授（社会人類学）による講義と、学生発表が行われている。今回の講座はこれに続く三日目の実施となる。

2. 本年度の「日本アジア講座」

本年度の「日本アジア講座」は、東北大学高等教育開発センター佐藤勢紀子教授（日本思想史）を講師に招き、2011 年 9 月 19 日（水）～23 日（金）の期間ノヴォシビルスクを訪問した。成田から北京経由で 20 日午前中にノヴォシビルスクに到着、21 日（水）に講座・学生発表会を実施した。また 21 日、22 日の両日は東北大学総長特別補佐木島明博教授、国際教育院ザンペイソフ・ノルボシン准教授もノヴォシビルスクを訪問し、22 日午前、東北大学説明会を開催した。またノヴォシビルスク大学では、新たに日本センターを学内に設置したが、その開所式もあわせて開催された。

津波に関するセミナー

今回の講義では、ノヴォシビルスク国立大学側でも企画を準備してくれた。これは津波に関するものであり、20 日午後 14 時 15 分～16 時に、ノヴォシビルスク国立大学ミハイル・ラヴリンティエフ教授、ユーリ・フジャコフ教授、ヴァチェスラフ・K・グシャコフ教授の三人による報告があった。ラヴリンティエフ教授の報告は、津波のシミュレーションによる到達時間の計測に関する技術開発に関する報告であり、フジャコフ教授の報告は、

ヨーロッパの歴史記録における地震・津波災害に関する記述に関わる報告であった。グシャコフ教授の報告は、地層のサンプルからの過去の津波発生の実態の観測に関する報告であった。これらの報告は、ノヴォシビルスク大学が今回の東日本大震災に強い関心を持っていることを示すとともに、この分野での今後の研究協力の可能性を示すものと言える。

日本アジア講座

9月21日（水）10時45分～12時30分、ノヴォシビルスク大学内の会議室において、佐藤勢紀子教授の講義『源氏物語』と仏教思想——主要人物の人生解釈をめぐって——が行われた。今回の佐藤教授による講義では、日本の代表的古典文学「源氏物語」を取り上げ、従来恋愛小説としてのみ評価されがちな「源氏物語」が、仏教的な価値観によって創作されたものであることを、「無常」「宿世」などのキーワードの用例を検討しながら論じた（詳しくは添付の要旨及び当日配布資料参照）。今回の論題については、学生の関心は非常に高く、50名ほどの教員・学生が参加して、熱心に講義を聴講した。例年どおり聴講学生に対してアンケートを実施した（結果は後述）。



写真：（左）講義をする佐藤教授

（右、中）ノボシビルスク市内の大学から集まった聴講生



講義終了後、研究者交流会と題して、東洋学科の教員室において、日本側の岡・佐藤教授・徳田助手、ノヴォシビルスク国立大学東洋学科からはエレナ・ヴォイティシエック東洋学科長、同エヴゲニヤ・フロロヴァ講師、イリーナ・シモノヴァ講師、同学科の国際交流基金派遣日本語教育専門家山口紀子氏、アンナ・キム日本センター長代行、ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族学研究所エレナ・ソロヴィエヴァ研究員、ノヴォシビルスク国際関係大学オリガ・ノヴィコヴァ講師、ノヴォシビルスク教育大学マリーナ・カリュジュノヴァ講師、札幌ノボシビルスク友好交流協会会長千葉裕子氏、ノヴォシビルスク工科大学日本語講師井本みさと氏、「シベリア北海道」ノヴォシビルスク市文化センター長イリーナ・プリク氏同職員リュドミラ・ミロノヴァ氏が出席した。



学生発表会

大学の学生食堂での昼食の後、15時から17時まで、例年通り東洋学科学生による学生発表が東洋学科の教室において実施された。今回は4年生と5年生による9件の発表が行われた。その内容は近代の日韓関係、日米BMD協力、日本語のからだことば、日本の部落問題、井原西鶴の「好色一代女」と溝口健二の映画「西鶴一代女」、和紙の伝統と文化、三十六計論



文の適用パターンの例に基づく現代日本の開発の傾向、社会的・文化的・歴史的日本の屏風壁画発達の特徴、太平記をめぐる平安文化から軍記物語への移行に関するものであった。例の如く学生の発表は流ちょうな日本語を用い、レベルの高いものであった。

写真：(左) 学生発表会の参加者 (上) 発表風景

この日は、ロシア科学アカデミーシベリア支部主催のレセプションがアカデムゴロドク内のゲストハウスで行われた。参加者はアカデミー側がフォードル・クズネツォフ教授、マリーナ・コシノヴァ氏、ワシリー・アレシチェンコ国際関係担当議長顧問、シベリア支部国際関係部長セルゲイ・ザカヴリヤシン氏、エレナ・ヴォイティシエク・ノヴォシビルスク大学東洋学科長、日本側が木島明博総長特別補佐、東北大学国際教育院ザンペイソフ・ノルボシン准教授、佐藤勢紀子高等教育開発センター教授、岡洋樹東北アジア研究センター教授、徳田由佳子東北アジア研究センター助手であった。

ノヴォシビルスク大学学長表敬訪問

9月22日(木)は、まず9時からノヴォシビルスク大学ウラディミール・ソブヤーニン学長への表敬訪問が行われた。東北大学からは木島補佐、ザンペイソフ准教授、佐藤教授、岡教授、徳田助手、アカデミーからクズネツォフ教授、ヴォイティシエク東洋学科長、サガイダグ国際交流部長、フロロヴァ講師であった。今回東北大学とアカデミーシベリア支部は、三つの分野での研究協力について合意したことが披露された。ソブヤーニン学長は、木島特別補佐との歓談の中で、今後の東北大学との交流に強い意欲を示され、来年3月に仙台で開催される予定の日露学長会議への出席を快諾された。

写真：(上) ソブヤーニン学長と木島総長補佐

(下) 学長室にて



日本センター開所式と東北大学説明会

10時15分から、ノヴォシビルスク大学が学内の学生寮内に新たに設置した日本センターの開所式が執り行われた。これは、ノヴォシビルスク大学人文学部東洋学科が、東北アジア研究センターの支持により国際交流基金さくら中核事業に採択されたのを機会として、独自に設置したものである。その目的は大学関係者、アカデミーシベリア支部関係者、アカデムゴロドク住民への日本語教育、日本文化・習慣に対する理解の促進、日本の大学に関する情報の発信、ノヴォシビルスク大学情報や留学生用カリキュラムの情報発信、学生・講師の交換留学の支援、日本関連の行事開催、日本関連研究会の開催支援、学習・研究活動のための蔵書構築などである。センター長はナタリア・クタフィエヴァ東洋学科准教授



である。事務員一人（アンナ・キム氏）を専従させている。センターは学生寮内9階に14人収容可能な教室と、事務室の二部屋で設置されたものである（写真参照）。開所式ではノヴォシビルスク大学国際関係部長サガイダグ氏による趣旨説明があり、その後、ノヴォシビルスク大学ラヴリンティエフ副学長から祝辞が述べられた。

引き続き10時45分から、同じ場所で東北大学説明会が実施された。まず木島明博特別補佐より、今回の東日本大震災に伴う津波の被害について報告がなされた。その後ザンペイツフ准教授から、東北大学の紹介と留学プログラムなどについて説明があった。また岡洋樹教授と佐藤勢紀子教授より、文系の留学生受入について補足説明があった。説明会には、東洋学科学生が参加し、熱心に聴講した。会場では、東北大学に留学したい人はいますかという問いに、早速数名が手を挙げ、また具体的な留学方法について尋ねる学生もいた。



（左）説明会に参加した学生たち

説明会后、廊下で学生たちから質問攻めにあう（右）



昼食の後、ノヴォシビルスク市内に移動し、市内の博物館で開催されている東洋の玩具に関する展示会を見学した。このコレクションは、ヴォイティシエク教授が日本・中国・韓国で収集したものである。

これにより公式行事は全て終了し、同日夜半ノヴォシビルスク・トルマチェヴォ国際空港から日本に向けて帰国の途についた。

3. 第3回日本アジア講座の総括

今回の日本アジア講座は、当初二名の講師を予定していたが、一名が都合により参加できなくなり、佐藤教授一名による講義となった。佐藤教授のテーマ「源氏物語」は、日本の代表的な古典文学であり、日本を代表する研究者によるレクチャーには、東洋学科学生の関心が非常に高いことが伺われた。学生アンケートにおいても、日本文化に関する関心が高いことが伺われ、テーマとしての選定は適当であったと判断される。総じて東洋学科の教育内容は、日本語とヨーロッパ伝統の東洋学における日本文化研究であり、将来この分野での交流の拡大は非常に有望と思われる。また今回講義を担当された佐藤教授は、東北大学で日本語教育にも携わっており、この面でもノヴォシビルスク側の関心を集めたと言える。日本研究分野での交流拡大は、他の文系あるいは理系分野の研究交流にも貢献することが期待される。とくに今回ノヴォシビルスク大学の東洋学科が日本センターを設置したことは、同センターを通じて東北大学など日本の大学へのアクセスを容易にするインフラが構築されたことを意味し、これを通じた諸分野への交流拡大が望まれる。(上) 日本センターの教室



例年ノヴォシビルスク大学人文学部は最大限の歓迎を示してくれており、「日本アジア講座」の成功は、同大の積極的な協力に負うところが非常に大きい。また同大の日本語・文化教育のレベルは非常に高く、日頃の同大教員の努力は評価されるべきである。また同大に国際交流基金から派遣されている山口講師ら、現地日本人スタッフの貢献も大きい。ノヴォシビルスクには、「シベリア日本」ノヴォシビルスク市文化センターが置かれており、北海道札幌市との長い交流関係の実績がある。このような日本語教育・文化交流活動の積み重ねが、我々の講座の成功の背景として大きく貢献していることは特筆するべきであると思われる。



(上) 廊下に設置された
東北大学のバナー

さらに今回は、東北大学総長特別補佐木島明博教授が合流し、東北大学の紹介を行ったことは、「日本アジア講座」三回目というタイミングで非常に効果的であったと思われる。木島特別補佐は、早くからノヴォシビルスクとの交流に尽力しており、厚い交流実績を有する。今回は大学執行部による説明会開催により、「日本アジア講座」実施との相乗効果が得られ、ノヴォシビルスク大学側の日本との交流への関心の高まりに貢献したと思われる。

これに関して、昨年ノヴォシビルスク大学人文学部東洋学科が国際交流基金が実施しているさくら中核事業に採択されたことを特筆しておきたい。採択されたのは教科書などの購

入予算に限られたようであるが、同大は独自に日本センターを学内の学生寮 9 階に開設した。さくら中核事業への申請には、東北大学東北アジア研究センターが協力組織として名を連ねており、両機関の交流の具体的な成果といえる。



(左) 日本センターのロビー。
茶会などの行事が開催される。



(右) 日本センターからの眺め。
オビ湖の水平線が見える

訪問講座「日本とアジア」は、五年計画で、来年度が最終年度に当たる。計画終了後、これを基礎として、さらなる交流の展開が強く望まれる。東北大学は、木島特別補佐の下にロシア交流推進室を設置しており、全学的な支援態勢を整えている。今後このような態勢をフルに活用しながら、ノヴォシビルスクとの研究・教育交流を推進していくことを望みたい。講座では、毎年東北アジア研究センターが中心となり、文学研究科、国際文化研究科など、学内外の研究者にレクチャーを依頼してきた。ノヴォシビルスク大との一層の交流展開に当たっては、ロシア交流推進室が全学を中心となって調整に当たることが望ましい。これにより、学内各部局ですでに進展しているロシア科学アカデミーシベリア支部との研究交流や、ノヴォシビルスク国立大学との教育研究交流が、さまざまな研究分野において一層進展することが期待できよう。また、異文化理解の増進が地域研究の重要な使命であるという点に鑑みる時、東北アジア研究センターがロシアとの教育研究交流に果たすことのできる役割は大きいと考える。今後も同センターがさまざまな企画主体となって、交流事業に貢献することを期待したい。

(右) 学士会館前にて

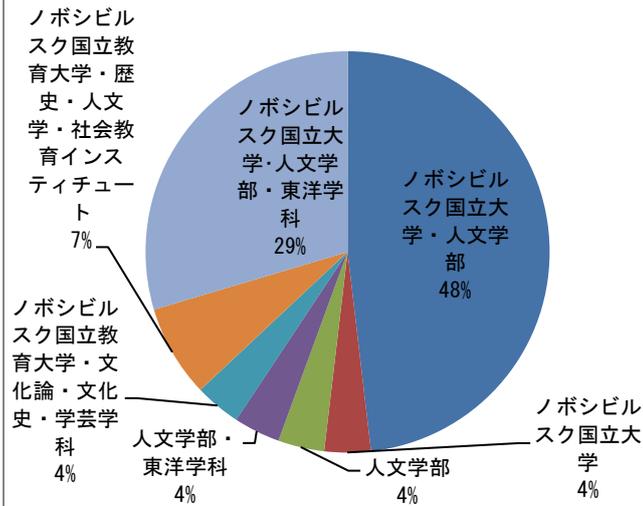


4. 学生アンケート調査の結果

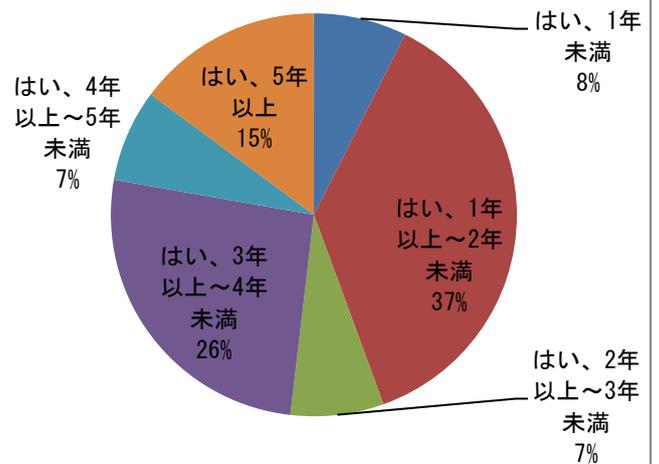
「日本アジア講座」出席学生に対するアンケート

5. 東北大学説明会出席者に対するアンケート

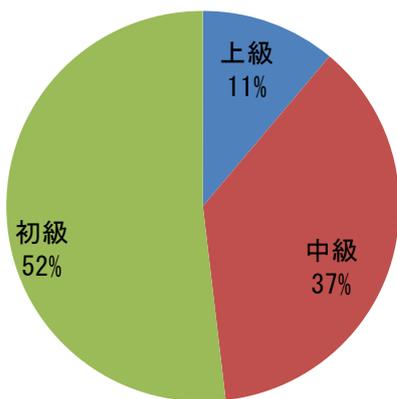
①あなたはどこの大学の何学部から来ましたか？



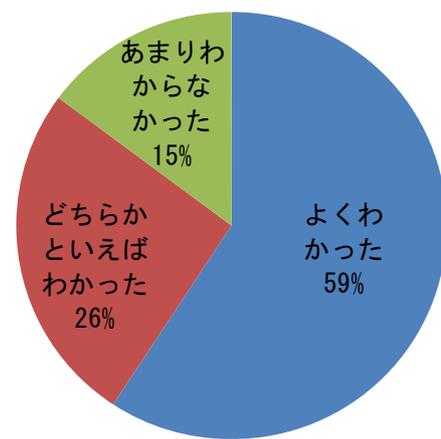
②あなたは日本語を学んで何年たちますか？もし学んでいるなら何年ですか？



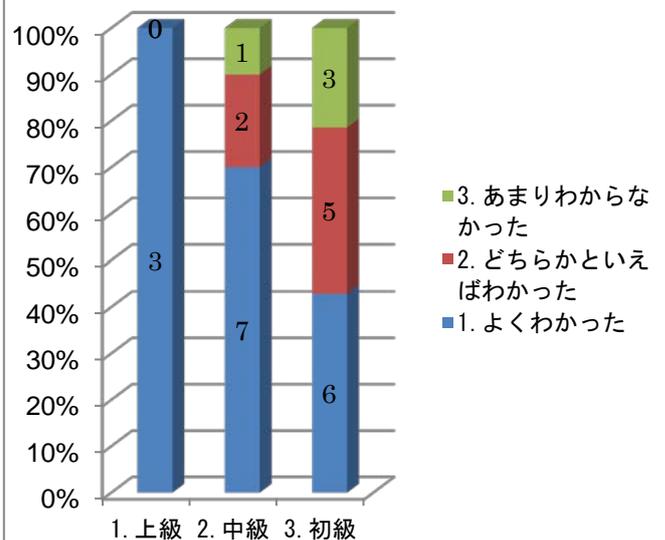
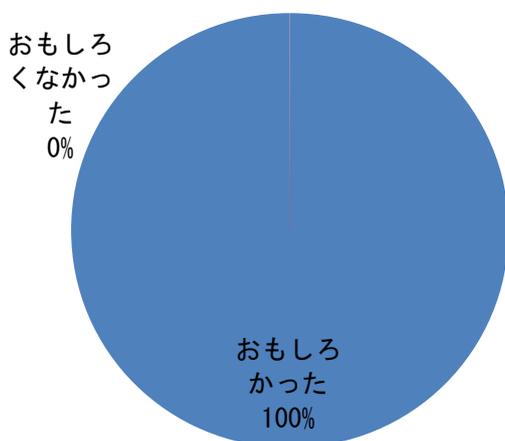
③あなたの日本語のレベルを教えてください。



④今回の授業を理解しましたか？



⑤今回の授業に興味を感じましたか？



⑥日本のどういう点に関心がありますか？

- ・ 歴史と文化
- ・ 文学
- ・ 歴史、文化、社会、言語
- ・ 言語、文化
- ・ 文化、言語、歴史
- ・ 文化、伝統、歴史、文学
- ・ 日本史、現代日本文化
- ・ 日本文化
- ・ 日本語です。そして文化と文学です
- ・ 言語のことが一番面白いと思います
- ・ 日本語と経済と文化です
- ・ 軍記や入れ墨に興味を持っています
- ・ 日本の文化と歴史
- ・ 日本の IT とナノテクノロジー：歴史と進歩
- ・ 日本の文化や歴史です
- ・ 日本の歴史、日本の映画
- ・ 日本文学
- ・ 日本文化と歴史
- ・ 日本の文化や社会、画道
- ・ 社会学、心理学
- ・ 日韓関係(現代の)
- ・ 中国との文化交流、兵法、現代日本文化と社会
- ・ 現在社会的な問題
- ・ 日本文化、経済
- ・ 日本語や日本文化や日本人の考え方に関心があります
- ・ 日本語、日本人の生活

⑦今回の授業の感想を書いてください。

- ・ とても面白い講義だった。
- ・ 面白く内容のあるものだった。
- ・ 内容があり啓発的。
- ・ 面白く啓発的。
- ・ 面白い。
- ・ 啓発的。短時間で大量の情報が得られた。
- ・ よかった。(源氏物語の)本は読んだことがないが、講義の聞いて読んでみようと思った。PCのプレゼンではなく、講義の内容を図解しているハンドアウトがあってよかった。
- ・ 面白い講義だった。
- ・ とても面白かったです。源氏物語が少しわかるようになりました。読みたくなりました。
- ・ 今日のはとても面白かったと思います。文学のことでしたからと思います。私たちの大学の先生は教えてくださいましたが、日本人のかたの意見はとても面白いと思います。
- ・ とてもおもしろかった。新しいことがたくさんわかりました。

- ・ 他の面というおもしろい面からお聞きして、ありがとうございました。
- ・ とても面白かったです。日本の文学が少し分かるようになりました。
- ・ 発表がとても面白かった。日本文学の知識がよくなったのはそれのおかげである。さらに、今は「源氏物語」を読んでいる。ですから、とれた知識は有益だと思う。
- ・ 日本の文化の中に「源氏物語」大切な本と思います。そして、日本語を勉強している学生にとって源氏のことを分かるのは大切です。それで会議はとても面白かったです。
- ・ とても面白くて楽しいでした。
- ・ 面白かったです。
- ・ 面白くて、役に立ちます。
- ・ 仏教思想を中心にした話は面白かった。
- ・ 授業はとても面白かったです。大変勉強になりまして、ありがとうございました。
- ・ 詳しい説明や新しい情報が、「源氏物語」という小説のもっと深い理解に役立つ。
- ・ とても面白くて、前と聞いたことのない情報が沢山ありました。とても参考になりました。
- ・ 授業はとても面白かったです。また源氏物語を読みたいです。
- ・ 面白かったです。資料はとても大切でした。
- ・ 面白かった。しかし静かなです。

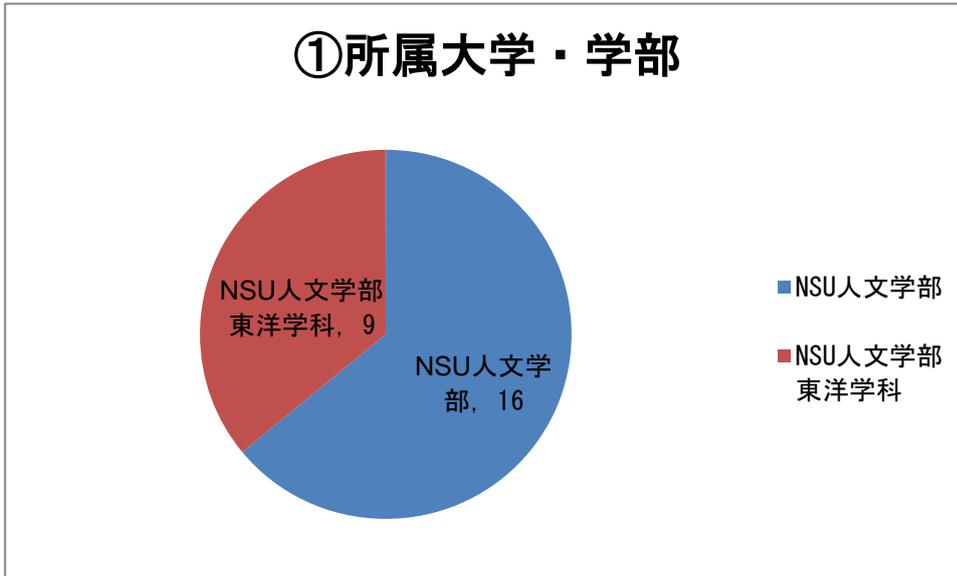
⑧今後どのような授業内容を希望しますか？

- ・ 戦国時代、平安、明治維新
- ・ 何でも
- ・ 日本の演劇
- ・ 日本の演劇
- ・ 日本人の伝統、日本人の日常生活と生活様式、日本の祝日とお祭り
- ・ 日本語について聞きたいと思います
- ・ 文科や言語のテーマは一番聞きたいことだと思います
- ・ 日本の文化
- ・ 日本の文学
- ・ 現在の社会について
- ・ 日本の考古学や日本の歴史を希望します
- ・ 日本の IT とナノテクノロジー
- ・ 現代の日本人の生活の中にしんとは何ですか？
- ・ 古い日本の文化（例えば、やまとの時）、幕末について、能について
- ・ 現代の日本の文学
- ・ 将棋と日本の文化
- ・ 日本の文化、社会問題、画道
- ・ 現存文化、政治
- ・ 谷崎潤一郎の「細雪」という長編小説について
- ・ 社会
- ・ 神道の歴史と今、日本文学、文化(昔と現代)
- ・ 神道についての授業が聞きたいです
- ・ 音楽や、マンガや、料理
- ・ 江戸の時代、侍や忍者

第 1 回 東北大学説明会に関するアンケート集計結果

開催場所：国立ノボシビルスク大学（2011年9月22日）

① 所属大学・学部

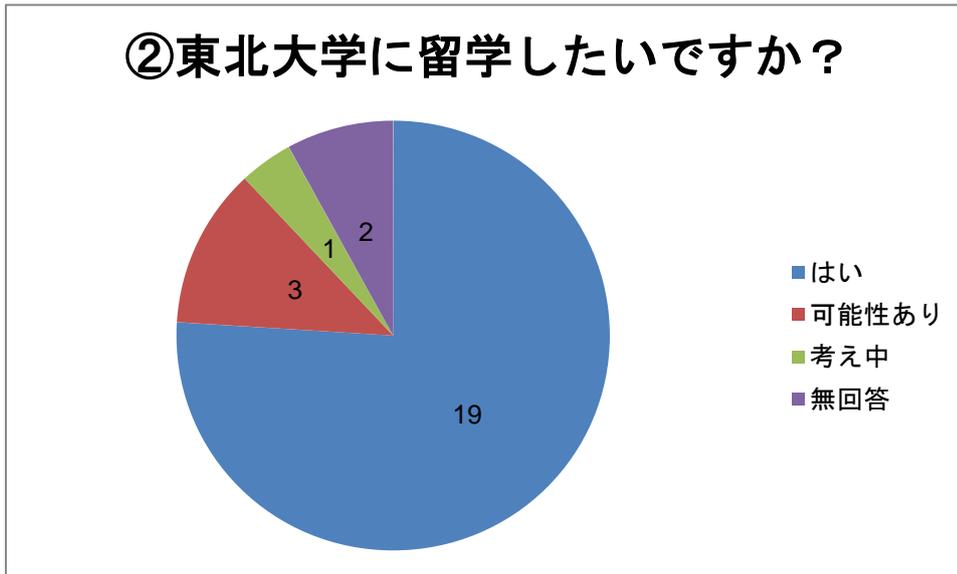


N=25

国立ノボシビルスク 大学人文学部	16
国立ノボシビルスク 大学人文学部 東洋学科	9

(単位：人)

② 東北大学に留学したいですか？

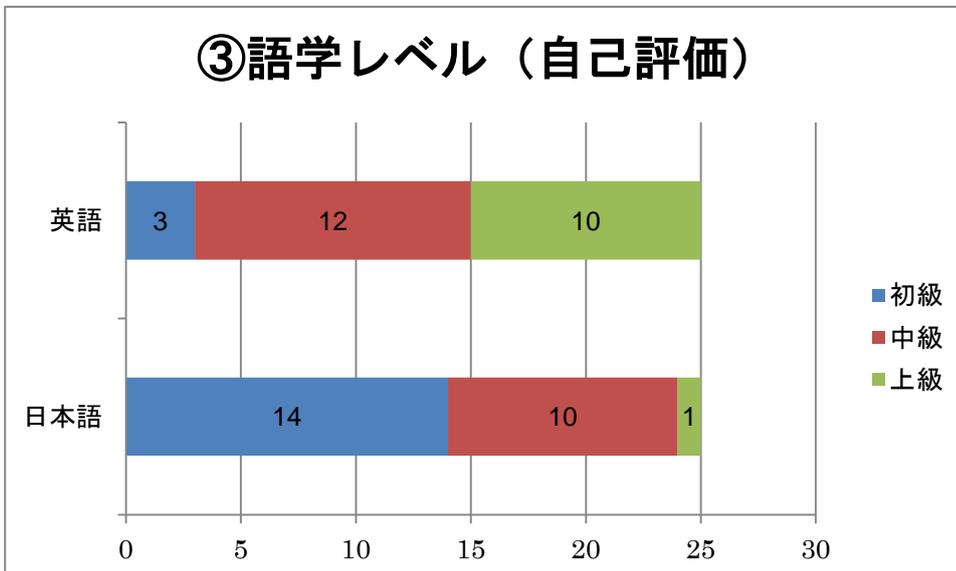


N=25

はい	19
可能性あり	3
考え中	1
無回答	2

(単位：人)

③ ご自分の日本語と英語の語学レベルはどのくらいですか？

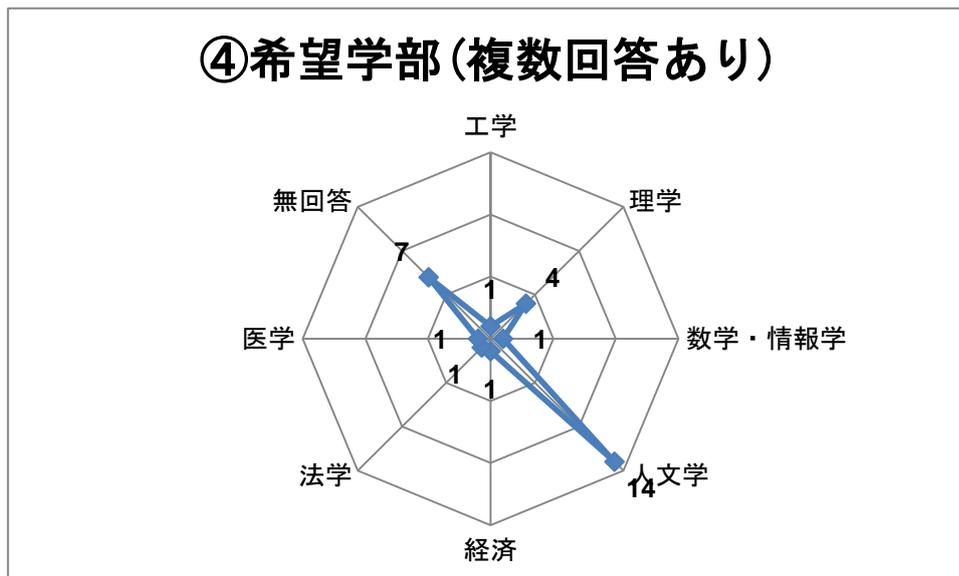


N=25

	英語	日本語
初級	3	14
中級	12	10
上級	10	1

(単位：人)

④ 希望する学部はどこですか？

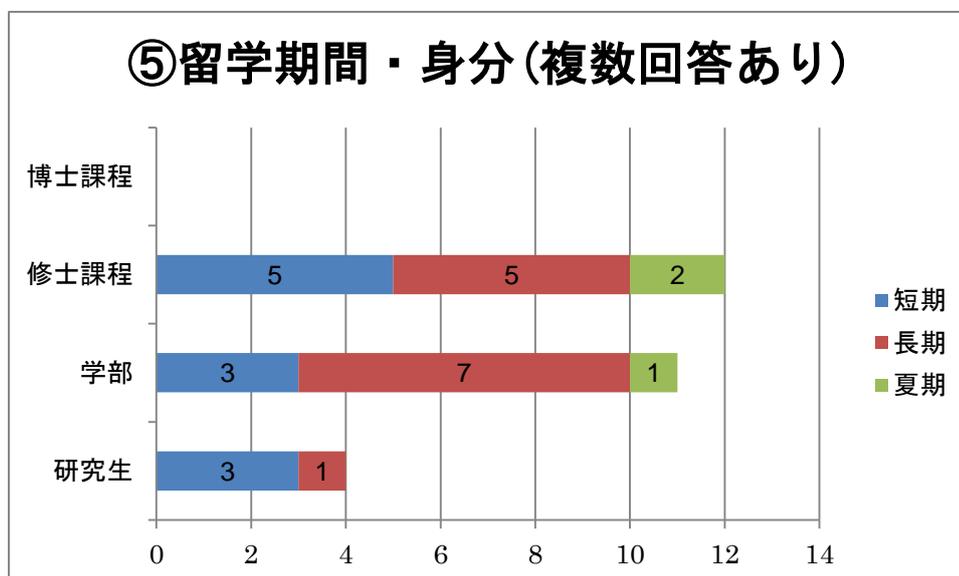


N=30

工学	1
理学	4
数学・情報学	1
人文学	14
経済	1
法学	1
医学	1
無回答	7

(単位：人)

⑤ 希望する留学期間と留学身分

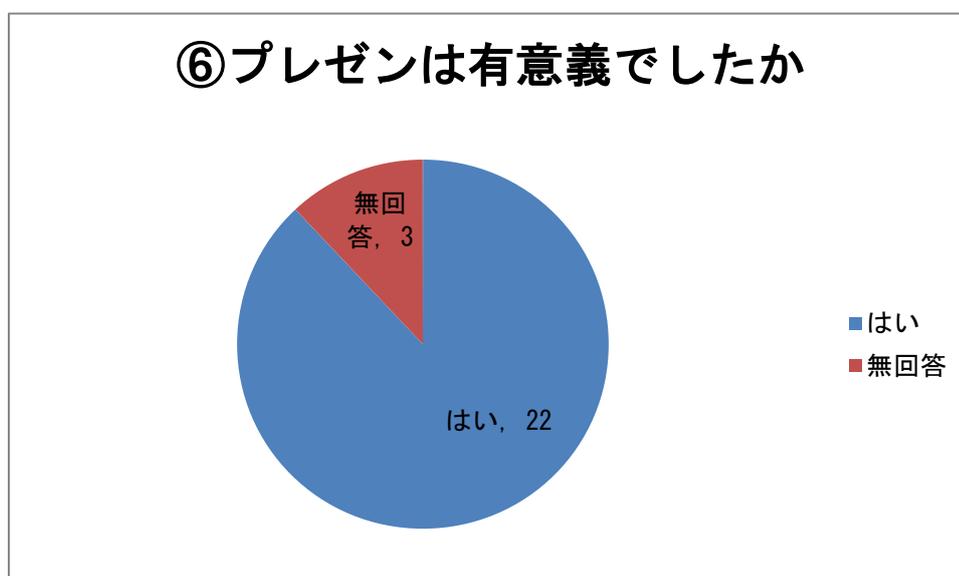


N=27

	短期	長期	夏期
博士	0	0	0
修士	5	5	2
学部	3	7	1
研究生	3	1	0

(単位：人)

⑥ プレゼンテーションは有意義でしたか？



N=25

はい	22
無回答	3

(単位：人)

⑦ 日本留学を考えている学生にどんな情報を知らせておくべきだと思いますか？（自由記述）

- ・文系プログラムで交換留学するにはどんな科目の試験を受けなければならないのか
- ・申請書提出手続き方法の簡易さ
- ・受入環境、将来の見通し、授業体制(コマ数、時間割など)
- ・将来の就職斡旋に関する情報
- ・将来の可能性に関する十分な情報
- ・授業料、奨学金についてもっと詳しく
- ・日本の文化と規範に関する情報
- ・日本文化、習慣、日本に対する興味がわくような情報

⑧ その他の質問(自由記述)

- ・文系のプログラムはありますか？
- ・外国人学生もボランティア活動ができますか？
- ・日本語検定 2 級以上のレベルの学生は日本語の授業を受けることができますか？
- ・外国留学生のために日本語以外の授業はありますか？
- ・二つ目の高等教育を東北大学で受けることは可能ですか？
その場合、(授業料は)どのくらい必要ですか？
- ・法学部と自然科学部へ入学するためにはどのような試験を受ける必要がありますか？
- ・大学では年間どのくらい祝日がありますか？祝日にはどのような催しがあるのですか？
それらすべての催しに参加しなければならないのですか？
- ・東北大学は研究に特化した大学なのですか？
- ・教育課程を修了することで日本国籍を取得することは可能ですか？その場合の方法は？
- ・日本以外の高等教育機関を修了後に日本の大学院に入学することは可能ですか？

【参考】 専門と研究テーマは何ですか？

東洋学:日本のチェス将棋の発祥
東洋学:アイヌの民間伝承
東洋学:日本における軍記物語の発展経緯
東洋学:日本学
東洋学:言語学、日本語
東洋学:歴史「グローバル化した日本のブランドとしての現代神道」
東洋学:歴史、日本学「日本の天災」
東洋学:ヤクザと日本
東洋学:日本語（専門は歴史）
東洋学:日本語
東洋学:日本語及び中国語、「兵法三十六計の適応など、現代日本文化の発展傾向」
東洋学:ロシア人と日本人の民族心理学
東洋学:屏風の壁画
東洋学
東洋学
東洋学
東洋学
日本学:歴史
日本語:文学および考古学
歴史
文人
IT 分野における日本のナノテクノロジー